第 9 3 2 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 6 年 9 月 2 7 日 (金) 1 5 : 0 0 ~

場 所 益田市立保健センター 大ホール

益田市教育委員会

第932回 教育委員会定例会

招集年月日 令和6年9月27日（金） 15:00～

招集場所 益田市立保健センター 大ホール

議事日程

第1 会議録の承認について

第2 教育長報告

第3 議題

議第16号 感謝状の贈呈について

報第38号 市内小学校で発生した給食時における金属物の混入について

報第39号 益田市立学校整備計画審議会委員の委嘱について

報第40号 令和6年度全国学力・学習状況調査結果を受けた対応について

報第41号 「ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス」開催報告について

報第42号 萩・石見空港マラソン全国大会準備状況等の報告について

報第43号 益田市立雪舟の郷記念館改修整備事業について

報第44号 第566回益田市議会定例会一般質問について

報第45号 令和6年度9月益田市一般会計補正予算について

第4 その他

(1) 情報提供

(2) その他

出席者

教育委員会

教 育 長	領 家 芳 明
教 育 委 員	大 庭 隆 志
教 育 委 員	齋 藤 哲 瑯
教 育 委 員	原 田 笑
教 育 委 員	山 本 ひとみ

事務局職員

教 育 部 長	長 嶺 勝 良
教 育 総 務 課 長	齋 藤 勝 義
学 校 教 育 課 長	田 原 正 紀
文 化 振 興 課 長	田 中 一 史
協働のひとづくり推進課長補佐	中 島 光 太 郎
美 都 分 室 長	澄 川 武 寿
匹 見 分 室 長	齋 藤 一 臣
教 育 総 務 課 長 補 佐	植 田 拓 也

領家教育長 定刻となりましたので、ただいまから令和6年度第932回益田市教育委員会定例会を開催いたします。
それでは、議事に入らせていただきます。

第1 会議録の承認

領家教育長 前回定例会の会議録については、委員の皆さんには先ほどご承認いただきましたので、報告させていただきます。

第2 教育長報告

領家教育長 続きまして、議事日程第2、教育長報告に移らせていただきます。資料は、議事日程の次のページをご覧ください。

今回は、8月30日から9月27日までという一覧表になっております。私からは、この中から2点ほど皆様方にご紹介しようと思っています。

8月30日金曜日、1番目にあります県立高校を核とした益田の未来をつくる会設立総会第1回役員会というのに参加してまいりました。これまでは、県立高校につきましても、益田市未来の担い手育成コンソーシアムという従来あった組織で、あらゆることを一緒に議論してまいりました。ところが、昨年度高校の魅力化部会というところで、県立高校の魅力化についてはさらに強化をして進めたいというご意見もございまして、昨年末のコンソーシアムの会で、県立高校については新たなコンソーシアムを立ち上げて、さらなる強化を図っていこうという議論がなされたように聞いております。ということで、ここにあります県立高校を核とした益田の未来をつくる会というものが新たな県立高校の魅力に特化した推進組織として立ち上げられたところがございます。これと、従来からありました益田市未来の担い手育成コンソーシアム、この2つがそれぞれのよさを生かしながら連携をして、さらに充実した活動をすることによって未来のこの地域を担う人材の育成がさらに強化されるようにということで立ち上がったものでございます。

これにつきましては、9月の定例会でも各会派の代表質問の中で、市長にもどんな形になるのかっていうようなご質問もありましたので、そんなことも併せて市長が答弁してくださったようなこととございます。その会の役員会に参加させていただいて、この会議の会長職も賜りましたので、私が会長を務め、それから市

内の2つの県立高校の校長先生方が2名、副会長として参加され、それから市役所産業経済部長さん、それから学識経験者の方、そういった方々で会を構成しながら、これから進める中でメンバーも増やしていこうと、そんな形で進める会でございますので、ご承知おきをいただければと思います。

それからもう1点は、9月18日と、それから本日ですが、9月27日、企業版ふるさと納税感謝状贈呈式というものに参加してまいりました。企業版ふるさと納税ということで、9月18日にはテラテクノロジー株式会社様、それから今日はカツデン株式会社様、それぞれ益田にもご縁のある企業の方々からいただきました。テラテクノロジーの社長さんは東京益田会の会長さんも務めておられる宮本さんという方でございます。このテラテクノロジーの納税に関しましては、教育委員会の中高連携事業と、それから小規模校6校の小学校の合同学習の事業について、その寄附を有効活用させていただいています。今回は、小規模校6校の合同学習の概要につきましては、都茂小学校の坂野校長先生がプレゼン資料を使って様子を紹介してくださいました。あわせて、6校のうちの4校の校長先生方も応援に駆けつけてくださって、小規模校の子どもたちの活動の様子等を話してくださいました。どんな活動をしていますかという、1人1台端末等も活用しながら、そこでつなげながらいろんな学習を展開しているということです。そのカメラですとか、プロジェクターですとか、そういったものの活用について、支援をいただいたお金を使っているということで、昨年度の一番特徴的な学習としては、美術、小学校で言えば図画工作なんですけれども、その鑑賞学習というものをZoomを使って美術館の学芸員さんの説明を聞きながら、それぞれの学校で子どもたちが質問をしたり、そんなことが小規模校の学習として取り入れられて、さながら1つの学校だと6年生が数名のところなんですけど、6校あれば大きな学校と同じぐらいの数の子どもたちの質問や感想、そういったものの議論が、しかも学芸員さんの専門性も交えながら学習が展開されるというようなことなどが取り上げられていました。

それ以外にも、実際に小規模校6校で集まって体育の学習ということでサッカーの学習をしたり、それからバスケットの学習をしたり、そこには明誠高校のサッカー部の皆さんも参加して下さって、トレーニングしたり、コーチクリニックみたいなことで、高校生に教わるような学習をしたりとか、そんなことも併せてやったり、もうすぐサッカー交流会だねっていうようなことを

Zoomを使ってやり取りをしたりとか、そのような中に益田の補助金なんかも合わせてこういう資金を活用させていただいたというようなことの報告がありましたので、実際に寄附して下さった企業さんも、あ、こんなふうに使われてるんだということを目の当たりにされて、とてもよかったというお話を伺っております。

それから、今日のカツデンさんにつきましては、益田版「ツナガル」とか、理系人材活用とか、市内の高校の連携事業だとか、それから昨年やった柿本人麻呂没後1300年祭とか、様々な教育委員会関係の事業にお金をたくさん使わせていただいています。学校教育課のほうから、理系人材活用事業ということで、島大の学生さんたちが夏休みに子どもたちに算数パワーアップ教室をしている様子、それがひとまるビジョンで紹介されたものを実際に見ていただきながら説明をしてくださったり、それから協働のひとづくり推進課のほうからは、市内4校の高校の魅力化事業ということで、どのような活動が展開されているか、それから文化振興課のほうからは、人麻呂没後1300年祭の様子、そんなものもお話をいただきながら、ご寄附いただいた浄財が本当に益田の人づくりにつながっているということを紹介させていただきました。結果的に、市内の高校生の地元就職率が、平成20年当初が20%だったものが、現在は50%近くにいらっしゃるような状況ですとか、成人式で益田に帰ってもいいよという子どもたちが8割方になっていたりとか、あと市長さんが代わって、ずっと積み上げてこられたことが本当につながってるんだなというようなご理解をいただいたところでございます。

そんな活動をしながら、この1か月が過ぎました。この間の主な公務については以上となりますが、皆様方から併せて質問等がありましたら伺いますが、よろしいでしょうか。

教育委員
領家教育長

＝全員了承＝

それでは続きまして、9月にいただいた寄附と寄贈について紹介させていただきますので、次のページをご覧ください。

寄附、寄贈につきましては、3件ございました。まず、梅寿会の皆様から、小中学校施設整備基金ということで現金を頂きました。梅寿会の方々は、ここ数年来、年に2回、3回とちょうど区切りのいいところでお金の整理をされた中で、余った浄財についてこの学校整備基金に寄附をしてくださるということで、本当にありがたいことが続いているところでございます。

2つ目は、高橋建設様が、吉田南小学校の児童玄関前駐車場の

補修ということで、舗装工事をしてくださいました。詳しくは、この後、議決のほうでご提案をさせていただきますが、高橋社長さんは吉田南小学校のPTA会長さんを長くお務めになられたり、それからパートナーの方につきましては、吉田南小校区の主任児童委員さんとして様々な形で吉田南小学校あるいは校区の皆さん方に対してご支援をいただいているところです。ちょうど一番下の子どもさんが今年度中学校に進学されるということで、いよいよ吉田南小学校さんと縁が切れるから、何とかこれまで関わった記念としてぜひ貢献したいということでしてくださいました。実は児童昇降口の前のところがずっと舗装してあるんですが、その最後の先のところが土になっていたんです。保護者の方たちも車をとめるところで、水がすごくたまったりというような状況があり、それをずっと知っておられましたので、最後にご奉仕をしたいということでしてくださいましたものです。

それから、3番目、故佐々木浩二様ですが、娘さんから、佐々木浩二さんの遺志を継いで、益田市立図書館に図書を寄贈したいということでした。およそ10万円分の図書を司書さんに選んでいただいて、それを本として寄贈したいということで、六十数冊の本を寄贈していただいたというようなことでございます。

この3点につきまして寄附、寄贈がありましたので、ご紹介をさせていただきます。よろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

第3 議題

議第16号 感謝状の贈呈について

領家教育長

続きまして、議事日程第3、議題に移らせていただきます。

本日の議題は、議事案件が1件、報告案件が8件となります。

それでは、議第16号感謝状の贈呈について事務局より説明を求めます。

齋藤課長

それでは、感謝状の贈呈に関しまして、資料に基づきご説明させていただきますと思いますが、先ほど教育長から寄附のところでお話しされたとおりでございます。

このたび吉田南小学校児童玄関前の駐車場に関しまして、長年凹凸がありまして、駐車をするスペースについて、地元の方であったり、保護者の方であったり、かなり苦慮されていたというところからございました。うちのほうとしても、応急措置等をやってきたわけですが、このたび高橋建設の社長からご厚意でその部分

についての舗装をいただけるというところで、今回の対応をいただいたというところでは、

雨水対策ということで、高橋建設のほうから頂いた資料に補修内容が書かれています。アスファルト舗装ではなく、通常のコンクリート舗装をされたところから道のほうに沿って舗装がされていない部分があったところですが、ここを大々的にアスファルト舗装していただいて、駐車しやすいスペースということで生まれ変わった現状が右側の竣工後というところを見ていただければ分かるかなというふうに思います。

今回のこの件に関しまして、ご厚意で寄附をいただいたところですが、この舗装工事も多額の経費を費やして対応いただいたというところがあります。そういったところを踏まえまして、益田市教育委員会の感謝状贈呈要綱に基づいて、多額の金品等の寄附を行っていただいた方に対する感謝状の贈呈をしていきたいというところで、今回の議題として提案させていただいたところでは、

説明につきましては、簡単に以上です。

領家教育長

先ほど説明した件についてご質問等がありましたら伺いますが、いかがでしょうか。

大庭委員

20年以上前ですけども、吉田南小に教頭として勤めていたんですけども、これは正門から入って右側といいますか、昇降口の正面だと思うんですけども、左側は雨が降ったときでも車はとめやすいし、それから降りて歩くのに、それほど靴は汚れなかったんですけども、反対側はあの時代から本当に土がついたり、それから水たまりができていて、大変だったんです。それが今回の写真で見ますと、アスファルト舗装したりして、排水路も造ったりして、本当にこれはすごい環境の変化だと思います。大変ありがたいことです。以上です。

領家教育長

ありがとうございます。それでは採決に移りたいと思います。

本件につきまして、賛成の方は挙手をお願いいたします。

教育委員

=全員挙手=

領家教育長

全員賛成ということで、本件は承認されました。事務局のほうは必要な手続を進めてください。

報第38号 市内小学校で発生した給食時における金属物の混入について

領家教育長

続きまして、報告案件に参ります。

報第38号市内小学校で発生した給食時における金属物の混入

齋藤課長

について、事務局より説明を求めます。

それでは、先般新聞等にも出てまいりましたけれども、市内小学校で発生いたしました給食時における金属物の混入に関しまして、資料に基づきご説明させていただきたいと思っております。

資料の中で、発生日時、発生場所というところですが、令和6年9月10日の火曜日12時14分に、市内の益田小学校のほうで発生したという状況です。金属物の発見に係る経過というところですが、12時14分の時点で給食が配膳されたわけですが、この中で盛りつけられました厚揚げのみそ汁の中に金属物を児童が目視で見つけまして、担任のほうに報告をしたというところですが、即時に学校から教育委員会に電話での報告をいただいております。

その後、34分になりますが、その報告を受けまして、各小・中学校のほうへ厚揚げのみそ汁の飲食の中止、また児童・生徒の体調異常の有無等に関しての確認依頼を行ったところですが、

以下のところで、市長以下関係者にはこの状況についての報告を行っております。

続く50分のところになりますが、給食会の職員また調理委託の業者が学校へ出向きまして、混入されていた太さ0.5ミリ、長さ2センチ程度になりますが、渦巻状の針金のような金属物の状況を確認いたしまして、この金属物を回収したというところがございます。

この後、15時35分までの時間が空いておりますが、この間に調理業者またセンターの職員等で一斉の調理場内の点検を行いつつ、その後15時35分には、学校のほうでまず緊急職員会議を開催、今後の対応についての協議を実施しております。

また、50分に各学校に対しまして保護者宛ての文書を送信し、対応をいただいているという状況です。あわせて、報道発表を行ったというところですが、

その後ですが、16時10分に、益田保健所によりましてセンター場内の立入調査を行っております。立入りをいただいた上で、18時にはこの検査の結果、場内での調理器具には異常がなく、また、作業工程等についても検証を行い、場内の安全の確認を行ったというところがございます。

9月10日の調理の状況というところがございますが、調理食数につきましては、市内19校、これは高津学校給食センターのみになりますけれども、3,587食の調理を行っているという状況です。

3番目に、今後の対応というところです。この混入された金属物を回収いたしておりますけれども、成分検査を行いました。これにつきましては、金属であったということがございます。金属でもあり、重さもありますので、本来であれば調理していれば中に沈んでいるというところがございますが、混入された状態の写真に掲載しておりますけれども、状況としては厚揚げの上に乗った状態での発見という状況であったというところがございます。

いずれにしても、金属物であったというところですが、どこの場所にあるものなのかということに関しましてはなかなか特定ができないという検査結果が出ております。

また、これを機会にですけれども、調理委託業者、また配送業者、学校関係者、給食関係者に対しまして、調理過程そして給食の配送、学校における給食の配缶等におけるリスク回避に対する意識啓発、これを再度徹底していくというところを考えているところです。もう既に、調理業者また配送業者とも協議のほうを行って、再度の再発防止等々を含めた注意をしていくというところでの対応をしているところです。

先ほど申しあげました混入された金属物の写真を上げております。ご覧いただければと思います。説明は以上です。

領家教育長
大庭委員

ただいまの件につきましてご質問等がありましたら伺います。

太さ0.5ミリメートル、そして長さが2.0センチメートルの渦巻状の針金とあるんですけども、これはいわゆる渦巻状の直径ですよ。ですから、あれを伸ばせば、大体4センチぐらいになると思うんです。だから、解釈の問題かもしれませんが、私は見たときに違和感を感じましたが、その辺、直径ということ考えておられたのでしょうか。

齋藤課長

そうですね。委員のおっしゃるとおりです。言葉の中で分かりづらかったところがありましたら、その辺りはまた今後の対応の中で対応してまいりたいと思います。

領家教育長
教育委員

よろしいでしょうか。

=全員了承=

報第39号 益田市立学校整備計画審議会委員の委嘱について

領家教育長

では続きまして、報第39号益田市立学校整備計画審議会委員の委嘱について、事務局より説明を求めます。

植田室長

益田市立学校整備計画審議会の委員の委嘱についてということでございます。

益田市立学校整備計画審議会は、教育委員会からの小・中学校の統合及び校区変更に関することなどの質問に応じるために設置するものでございます。令和元年度に策定の今後の小・中学校の在り方実現に向けた実施計画の計画期間が令和10年度までとなっております。5年が経過する令和6年度末に本計画の見直しを行う必要がございます。本審議会のほうに諮問をし、いただいた答申に基づく計画見直しと考えることから、別紙の委員に委嘱をするものでございます。説明は以上です。

領家教育長

はい、ありがとうございます。

ただいま説明した件につきましてご質問等ありましたら伺いませうがよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

報第40号 令和6年度全国学力・学習状況調査結果を受けた対応について

領家教育長

それでは、次に移らせていただきます。

報第40号令和6年度全国学力・学習状況調査結果を受けた対応について、事務局より説明をお願いします。

田原課長

そうしましたら、私のほうから説明させていただきます。

資料をご覧ください。

今回、令和6年度の学力調査結果を受けまして、平均正答率とそれから児童・生徒の質問紙との相関について分析をしたところでございます。それを受けまして、その課題と対応ということでご報告させていただきたいというふうに思います。

資料としては2ページになりますけども、まず児童・生徒の質問紙のうち、まず生活習慣等というところから、これは小学校も中学校も共通してですけども、ふだん1日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますかということで、この質問紙と学力の平均正答数というところで相関関係が見られております。状況としては、1日当たりテレビゲームの使用時間が長いほど平均正答数が低い傾向にあるということでございます。

続いて、質問紙としては、ふだん1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますかということですけども、クロス分析の結果によりますと、1日当たりの携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴の時間が長いほど平均正答数が低い傾向が見られるということでございます。

続いて、4ページ目になります。

質問事項としましては、授業で発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたかという質問ですけれども、分析した結果、自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表している児童・生徒ほど平均正答数が高い傾向にあるということでした。

続いて、5ページですけれども、質問事項としては、授業では課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたという質問紙でございます。分析の結果としましては、授業で課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ児童・生徒ほど平均正答数が高い傾向にあるということでございます。

続いて、6ページです。

質問事項としては、授業は自分に合った考え方、教材、学習時間などになっていたかということでございますけれども、個別最適な学びができていた児童・生徒ほど平均正答数が高い傾向にあるということが分かっております。

続いて、7ページ目、質問事項としては、学級の友達、生徒との間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができているという質問事項ですけれども、分析としては、話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりする生徒ほど平均正答数が高い傾向にあるということでした。

8ページ目ですけれども、質問事項として、授業や学校生活では友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるという質問ですけれども、これに対して分析の結果、協働的な学びができていた生徒ほど平均正答数が高い傾向にあるということでございます。今のは、中学校については相関があるということで、小学校については相関が見られないということでございます。

続いて、9ページ、質問事項として、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるということの質問紙に対しましてですが、総合的な学習の時間に自分で課題を立てて情報を収集、整理して調べたことをまとめ、発表する学習活動をした児童・生徒ほど平均正答数が高い傾向にあるということですが、細かなことを言いますと、小学生では国語、中学生では数学というところで相関が見られているということでございます。

続いて、10ページ目、授業の理解度ということですが、質問事項としては国語の授業の内容は分かるという質問ですけれども、

も、これは当然ですけれども、国語の授業がよく分かると回答している児童・生徒ほど平均正答数が高い傾向にあるということでございます。

続いて、11ページ目、同じくこれ算数、数学についてです。

こちらについても、授業がよく分かると回答している児童・生徒ほど平均正答数が高い傾向にあるということでもございました。先ほど説明した質問紙については、学力との相関が見られるんじゃないかということでもございます。

12ページのところでは、そういった課題に対する対応ということでもございます。

(1)番として、まず生活環境等ということについてでございますけれども、テレビゲームや携帯電話、スマートフォンの利用時間が長い児童・生徒は学力調査の平均正答数が低い傾向があるということでもございましたので、対応といたしましては、情報リテラシー育成教室の実施や情報モラル研修会の実施、それから就学時健診、保護者研修会ということで、ここでは具体的にメディアコントロールといったような話もさせていただいております。そうした取組を通じて、児童・生徒、保護者への理解、啓発を図ってまいりたいというふうに考えています。

続いて、(2)番、学習方法についてです。

課題としては、先ほど申し上げましたように、①から⑥までございまして、自分の考えがうまく伝わるように工夫して発表することや、自分で考えて自分から取り組んでいくということ、そして個別最適な学び等を実践すること、話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりということ、そして協働的な学びを進めていくということ、最後ですけれども、総合的な学習の時間に自ら課題を立てて、情報を集めて、調べて、まとめて、発表するというようなことが必要だということが課題として確認できております。

続いて、(3)番、授業の理解度については、授業が分からないという回答をした児童・生徒については正答率が低いということですから、この(2)番と(3)番の対応についてですけれども、各教科等の連携を図りながら、組織的に授業の質の向上を図っていくということで、具体的には2点ですけれども、それぞれの学校でこの学力調査結果を分析し、それぞれの教科で解決すべき課題は何なのか、学年、教科を超えて共通する課題は何なのかといったところを分析、それに対する改善策、手だてを考えていきたいと思っております。

もう一つは、これは教育委員会のほうで進めておりますけども、本年度から気づきと対話のある授業づくりを推進していこうということで取組をしております。この中で、この取組を通じて、授業の中で児童・生徒自身に気づいてもらって対話をしてと。そして、またそれが気づきにつながってというような形での授業づくりをしていくということを進めてまいりたいと考えております。これらを通じて、子どもたちの学力の育成につなげていきたいというふうに考えております。

簡単ですけども、以上でございます。

領家教育長

ありがとうございます。

ただいま説明していただいた件につきましてご質問等ありましたら伺いますけど、いかがでしょうか。

山本委員

令和6年度の結果ということですが、この調査は毎年しておられて、こういう形で分析をして評価しておられるのでしょうか。

田原課長

毎年分析をして、対応についても進めているところでございます。

山本委員

この傾向というのは単年で大きく変わるものではないと思います。ずっと同じような傾向ですか。

田原課長

大きくは変わっていないと思いますけども、ただ年度によって児童・生徒の質問紙の内容は若干変化があったりして、その関係で相関関係がある項目は若干変わることはありますけども、大きな傾向としてはそう変わってないというふうに思っています。

山本委員

そうであれば、資料の今の課題と対応の(3)番の対応というところで、『「各教科で解決すべき課題」「学年、教科を超えて共通する課題」2つの側面から分析し、改善策や手立てを考える。』とあります。ずっと同じ傾向であれば、多分改善策やその手立ても考えて、すでに実践しておられると思いますが、この資料を見ると、また一から対策や手立てを考えていくというような感じに受け取れます。実際には、やっておられてうまくいったところもあれば、もう少し強化をしたほうがいいんじゃないかというところもあると思います。ですから、そういった課題や評価を書いていくほうがいいのではないかなと思いました。

田原課長

実際、それぞれの学校で行っていただいております分析や手だてのところについては、これまでやってきて効果的であった取組や、それからその効果がどうだったのかということとその分析についても、それぞれの学校で改めて振り返ってもらうということもしていただいております。それを積み重ねていくことが必要なかなというふうに考えているところです。

領家教育長 山本委員がおっしゃっているようなことが、それぞれの学校で毎年繰り返されているのが実情です。

それから、併せて国のほうで大きな学習指導要領の改訂等がございます。そうすると、新たな教育の方向性などが少しずつ出てきて、そこで微妙に質問紙が変わっていったりというような状況もあったりして、新しい学習指導要領がスタートして、3年、4年経つくらいのところですので、ちょうど今折り返し地点に近づいているところだと思いますので、今のご指摘のようなことをまた学校のほうにもしっかり伝えていただいて、これまでの成果を確認しながら、また新たな改善点というところで進んでいければいいと思いますので、よろしく願いいたします。

そのほかはいかがでしょうか。

大庭委員 少し質問なんですけども、グラフをご覧ください。中3の国語のグラフがほかのグラフと少し、縦軸の示し方が異なっていますが、これは何か理由はあるのでしょうか。

領家教育長 何ページのグラフでしょうか。

大庭委員 2ページを今見ておりますが、2ページだけでなく、中3のところも全てです。中3の国語が示されているところの表現の仕方が他と違いますが、これは何か理由があるのでしょうか。

田原課長 言われるように、中学生の国語については、目盛りが1刻みで、それ以外のところは2刻みになっておりました。特段大きな理由があってこういう状況になっているのではないというふうに思っていますが。

大庭委員 できれば統一してもらおうほうがいいと思います。

田原課長 分かりました。

大庭委員 それから、3ページの中3の数学ですか、ここだけなぜか25%中央値、75%中央値といった凡例の記載がありますけども、これは何か意味があるのでしょうか。

田原課長 これも特段意味があってここだけに書いているわけではないと思います。

大庭委員 分かりました。

それから、3点目ですけども、2ページとか3ページのところですけども、例えば2ページのところの一番上の枠があります。読んでみますと、途中から読みますけども、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。）の使用時間が長いほどとあるんですけども、ほかのところでは、ここは何が入っているかということ、使用時間が長い児童・生徒ほど平均正答数とはいうことで「児童・生徒」という言

葉が入っているんです。2ページや3ページの文章には「児童・生徒」という記載がないので、表現の統一をしてもらおうと思います。また、「児童・生徒」があったり、「生徒」があったりもするので、そのあたりの表現の統一もしてもらえると非常にいいんじゃないかなということを思いました。

それから、4点目ですけども、3ページの一番上です。児童・生徒質問紙と学力のクロス分析とあります。その下に、【中学校】とあります。ほかのところを見ていただきたいと思うんですけども、【小学校】【中学校】と書いてありますが、5ページにも【小学校】がありません。それから7ページ、8ページも【小学校】がありません。一番上に児童・生徒の質問紙と学力のクロス分析とありますから、中学校だけの評価が入っているとしても、小学校という言葉は絶対に入れるものだと思います。というのは、相関係数の関係という表があります。あそこに小学校、中学校、どちらも示されていて、当然対象に小学校も入っていますので、【小学校】【中学校】という表現にしなければいけないと思うので、表現の統一をお願いできたらいいなと思います。

それから、12ページに、課題と対応というのがあり、課題が(1)、(2)、(3)で示されております。学習方法のところに対応がないなと思ってチェックしていたんですけども、(3)の授業の理解度のところで対応というのがありますけども、これは授業の理解度だけではなくて、(2)の学習方法の課題に対する対応も含んでいるという説明がありました。けども、やはりこれを見たときには、非常に分かりにくいので、できれば(1)、(2)、(3)で課題が示されているわけですから、それに対する(2)への対応もそこに示す必要があるんじゃないかと思います。(2)と(3)の課題に対してまとめて対応というのを書いているんですけども、ある程度具体的なものを示すことによって各学校への実践に生かしていただくという形が適切じゃないかなというふうに思いますので、ご検討のほうをよろしくお願いします。以上です。

齋藤委員

関連して発言します。調査票を見てないので分かりませんが、小学校と中学校は全く同じ質問項目と、同じ内容けど少し言葉のニュアンスが違うようなものがあったように思いますが、その違いでこういうふうになっているのではないのでしょうか。ただ、その説明が不十分だったので混乱しているのかなと思います。

田原課長

先ほど齋藤委員さんと大庭委員さんが言われた部分ですけど、児童・生徒質問紙と学力のクロス分析というタイトルの下に、

【小学校】【中学校】と記載してあるところと【中学校】と記載してあるところがあるということですが、基本的にここに書いてあるのは、相関が見られることと書いていますので、それに該当するのが小学校、中学校、両方該当していたら両方書いてあるし、中学校のみの場合は中学校しか書いてないということでございます。ですので、例えば3ページのところでいきますと、スマートフォンの関係の相関係数については、小学校は国語は0.12、算数は0.14なんですけども、この数値だと相関関係はないということになります。なので、クロス分析の結果としては、中学校だけが相関が見られるということで、中学校だけを入れていくということでございます。ただそれでいくと、5ページのところが、実はこれは中学校だけしか書いていないんですけども、小・中ともに弱い相関関係があるという数値が出ていますので、5ページについては小学校の記載漏れだというふうに思っています。

大庭委員

私もそのことは考えたんですけども、結局そうはいつでも小学校、中学校のそれぞれの相関係数の関係を表で示しています。ということは、小学校も関係しているので、やはり中学校だけのグラフが出たとしても、やはり小学校という言葉を入れて、上の文は全部【小学校】【中学校】という表現に統一すべきだと思います。0.2以下だから相関関係がないといえるのかもしれませんが、実際相関係数の関係の数値は出してるわけですから、グラフまで出さないにしても、一番上のタイトルのところには【小学校】という言葉は入れるべきだと思います。

齋藤委員

それに関連して発言しますが、文章を読んでいて、（全国学力・学習状況調査）の表記も必要ないと思います。クロス分析しているという形になっているので、今の大庭委員のように、小学校はこういう傾向で変更は見られなかった、中学校は若干こういう状況の動きはあったというふうな形で説明していけば、今の問題は全部解決するのではないのでしょうか。

田原課長

分かりました。

領家教育長

それでは、ご指摘等も踏まえながら、伝わる者によく分かる表現の仕方を工夫していただくということでもよろしくお願ひします。

原田委員

6ページのところなんですけれども、一番上のところのクロス分析の四角の中は、個別最適な学びがあるというふうに記載されています。ただ、グラフのところは、「個別最適な学び」の「か」が平仮名だったり、漢字だったりしていますが、これは全

部「個別最適な学び」ではないかなと思ったのと、先ほど大庭委員さんがおっしゃられたのと同じように、12ページの対応のところをもう少し具体的に、一歩先の対応策というのを検討していただきたいなと思っています。少し抽象的で、本当にどうということが対応策になるのかというのが想像がつかないので、もう少し具体性が欲しいなと思いました。

領家教育長

はい、ありがとうございます。

では、そうしたことも踏まえて資料作成をお願いします。

田原課長

はい。

齋藤委員

それともう一つあります。学力調査の調査項目はものすごく多いのですが、今ピックアップされている部分はどういう条件でピックアップしているのでしょうか。

田原課長

今、ここをピックアップしているのは、相関が見られるものの質問紙についてピックアップしております。なので、ほかにも質問紙はいっぱいあるんですけども、平均正答率との相関が見られないものについては今はここに上げてないということでございます。

齋藤委員

そのことはやはりどこかに記載しておく必要があると思います。

領家教育長

はい、そちらについてもよろしく願いいたします。

そのほかよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

報第41号 「ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス」開催報告について

領家教育長

それでは、続きまして報第41号「ひとが育ち輝くまち益田夏フェス」開催報告について、事務局より説明を求めます。

中島補佐

本日、課長が体調不良で休みを取っております。代わりまして、私よりご報告させていただきたいと思います。

資料をご覧いただきながらお聞きいただければと思っております。

8月10日ですけれども、「ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス」を開催しております。内容もそうなんですけど、これまでとは時期と会場も変更して新たなフェスに変わってきております。まず、記載はないんですが、時期については、児童・生徒など子どもが参加しやすいということ、また市外からも参加しやすく、帰省客にもイベントの開催していることやイベント自体の主旨が伝わるように、夏休み期間のお盆直前、8月10日に開催をした

ところでは、来場者からは、夏に開催していただいたおかげで参加できたのでよかったです、また参加したいです、来年もぜひ開催してほしいなどの意見をいただいたところです。

また、発表者とか出展者としまして、養護学校を含む市内の4高校から約15名の高校生にも参加していただきました。福祉団体との合同ブースの展開という新しい取組であったりとか、学級活動のプレゼンを実施していただきまして、高校生にも参加しやすい状況というものをつくることができたものと考えております。

また、会場についてですけれども、グラントワに変更しましたことで、講演や発表を集中して聞いていただいたり、あと展示も余裕を持ってご覧いただける、そうした環境づくりにお応えできたのかなと思っております。

また、限定的ではありましたが、石見美術館に来館された方が何かにぎやかなことをやっているから行ってみようかなってということで、夏フェスが目的じゃないんだけど、そういう方に立ち寄っていただいたりというようなこともありまして、複合施設で開催したことの一つの効果であるというふうに考えております。お手元の資料2枚目の、ページで言うと28ページです、ご覧いただければと思いますが、実施したことによる効果のところでは、人数については、前回の委員会でご報告をさせてもらっております。アンケート結果、真ん中あたりに出ております。夏フェス全体の満足度、肯定的な回答をしていただいた方が98%ととても高い数字になっております。

また、最大の目的としておりました益田市の人づくりに理解促進、内容は分かりましたかという問いに対しては、93%の方がその内容を理解できたと回答していただいているところです。以下、多くの方からうれしいコメントもたくさんいただいておりますので、またご覧いただければと思っております。

一方、これも記載はありませんが、課題、改善点もあったというふうに認識をしております。参加者からの感想、コメントとしましては、ブースが分散していたので一体感というのが薄かったという点であったりとか、場所が分かりにくいという意見もありました。楽屋のほうも一部会場にしておりましたので、結構グラントワの楽屋は入り組んでいて分かりにくいというところもありました。また、同時進行のプログラムが多かったので一部しか聞けなかったということが残念だったという意見もありました。これまでは、大体講演を聞いてもらったら、分科会を皆さんでして

もらって、また最後集まってということで、同じ動きを基本皆さんはされていたのですが、今回は好きなどころに行ってもらおうという仕掛けをしてみましたので、そうしたことによって一部しか聞けなかったことが残念だという意見もあったところでした。また、話したいことが入り口で終わってしまって、時間が短く感じたということで、そんな意見もいただいているところです。

また、企画運営をしました市の関係部署の職員の意見としましては、まず夏に開催したということで、小・中学生にぜひ来てほしいなという思いもあったわけですが、準備に時間を要しまして、広報が夏休み前にしっかりできなかつたというところが課題であったというところがありました。また、小・中学生が来てみたいと思えるようなブース展開であったりとか、何か仕掛けが要るのではないかという意見もありました。会場については、分かりにくいという意見もあったため、動線を少し工夫する必要があるということであったりとか、あと内容についても、学びを求めて参加するブースと、気楽に参加できるようなブースとに分けて展開してもいいのではないかなという意見もありました。具体的には、午前中に講演などの学び、それから午後に体験ブースを設けるなど、時間帯を分けてもいいのではないかという意見、案も出されているところです。

本日も報告しました内容につきましては、10月29日に開催されますひとづくり推進本部会議においても報告することとなっております。今後、アンケート結果、関係の皆様等の声を集約しまして、次回開催に生かしていきたいと考えております。

報告は以上であります。

領家教育長

はい、ありがとうございます。

今の説明に対してご質問等ありますでしょうか。

大庭委員

本当にご苦労さまでした。

市内外を合わせて280名が参加したということで、ここに円グラフがあるんですけども、円グラフは、通常スタート地点が垂直になるのではないのでしょうか。そして、スタートから右回りで区分けをしようと思うのですが、この円グラフは違って、見たときに非常に見づらいなと思いました。これは修正されるといいかなというようなことを思いました。

それから、よく見ると分かるんですけども、色の違いが分かりにくいです。年代ごとのパーセンテージが出ておりますので、できれば括弧で区分や人数を中に示されるといいのではないかなと思います。狭いところは書けませんが、そこはラインか何かを引

いて、書く形でされるといいんじゃないかなと思いました。色分けは非常に微妙で色の判断が難しいので、もしほかに色があればそちらに変えていただくと、今度次の会議に出される資料のときには、皆さんが非常に見やすいんじゃないかなと思います。

以上です。

中島補佐

はい、ありがとうございます。実は、私もこれを今日ご説明するというときに見たときに、グラフが10代が上のほうにあるんだろうと思ったら違うところにあったので、一瞬迷ってしまって、同じような感想を持ったところです。今思うと、50代の一番多い世代のところを一番見やすいところに配置していますので、もしかしたらそういう考えで配置しているのかもしれませんが、言われるように、一番スタートのところは10代だったほうが一般的だろうというふうに思います。また色や人数の表記なども含めまして、次回の報告のときには修正を考えていこうと思います。

原田委員

今回280名の方がいらっしゃったということですが、初めて参加された方の割合はありますか。

中島補佐

質問項目の中にそのような項目は設けていないので、正確な数字は分かりませんが、多くの方からコメントをいただきまして、それを見ると初めての方も当然いらっしゃるということは分かりますが、数まで分析ができるかということ、今出ているものでは難しいかなという状況です。

原田委員

私自身も参加させていただいたんですけど、やはり肌感覚では、去年も楽しかったから来た、社会教育にすごく興味があるというような関心が高い方が毎年来られている印象が強くて、いかにそうじゃない方、興味、関心を持ってない方、新しい方にも来てもらうかというのが今後の課題になってくるのではないかなと思いますので、そういったアプローチにも今後気を遣っていただけたらうれしいなと思います。

中島補佐

ありがとうございます。

先ほどアンケート結果の数字の報告もいたしました。益田市の人づくりの内容が分かりましたということで、いらっしゃった方の93%は肯定的な回答を返していただいたということです。しかし、今まで知らなかった方にいかに来てもらって理解してもらおうかというところを最大の目的として、このたび大きく形を変えて実施をしておりますので、引き続き思いを持ちながら、そのあたりの声もアンケートでも取れるような形を模索しながら進めていければと思っております。ありがとうございます。

山本委員

市外、県外の参加者が101名とたくさんの方に来ていただい

て、益田市の取組が本当に広がりつつあるんだなというふうなことを感じたところです。

資料を見てもみますと、北海道からの参加があるんですが、この方の参加動機、この度の参加のご縁というのは何だったのか、少し教えていただけたらと思います。

中島補佐

正直私は分からないんですけども、担当の派遣社会教育主事のほうに聞くと、どなたかが分かると思います。そうするとどういうつながりで来られるのかも分かるんじゃないかなと今は思っているのですが、今はお答えできず申し訳ありません。

山本委員

分かりました。では後日個別に教えていただけるとありがたいです。

それから、原田委員さんの質問とも重なりますが、新たな参加者を増やしていくことが大事なんだろうと思います。そうすると、その初めて参加された方の参加のきっかけというのも少し気になるところです。それが分かると、これからの対策につながるのかなとも思いますので、ぜひ質問事項の追加の検討をお願いします。

領家教育長

はい、ありがとうございます。

そのほかいかがでしょうか。

齋藤委員

細かいことですが、このチラシは記録として残されるものだと思いますが、開催日が入っていません。書類として残るものですから、開催日などの必要事項はやはり入れるべきだと思います。

中島補佐

はい、ありがとうございます。修正をしたいと思います。

領家教育長

そのほかよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

報第42号 萩・石見空港マラソン全国大会準備状況等の報告について

領家教育長

では続いて、報第42号萩・石見空港マラソン全国大会準備状況等の報告について事務局からお願いいたします。

中島補佐

続けて、失礼いたします。

10月20日、いよいよ一ヶ月を切りましたけども、第17回萩・石見空港マラソン全国大会を開催するというので、実行委員会事務局のほうで今準備を進めているところです。今年も多くボランティアスタッフの方にご参加をいただけるということで、162名と聞いておりますけども、そうした市民のボランティアの皆さんの協力をいただきながら、10月20日に向けて準備

備を進めているところです。

今日ご報告しますのは、7月31日までのところで、エントリーの受付を行って、その状況等が決まりましたので、ご報告をさせていただきますと思います。まず、エントリー合計人数については2,190名となっております。ハーフ、10キロ、ファミリー、それぞれ記載のとおり的人数で、右側のところに前年の数字と比較を載せております。コロナ禍を経まして、多くのマラソン大会が再開されている状況になっているということがネット等を見ると分かるんですけども、全国的にそうした中でマラソン大会のエントリー者数が減少傾向にあるということでございます。今大会についても若干減少しているというところはあるんですけども、現役の空港滑走路がコースの一部になっているということで、これはほかの大会にはない非常に大きな魅力となっているということもありまして、エントリー者数が若干減少はしているんですけども、大会運営上大きな支障があるというようなことはないという状況で、予定どおり開催していきたいというように考えております。

内訳をご覧いただければと思います。

RUNETというのが、ランナーの方が申込みをするサイトの最大手のものなんですけども、ここからのエントリーが1,823名、それから郵便振込、団体、ふるさと納税エントリーが367名という実績でした。ふるさと納税エントリーにつきましては、昨年度から始めておりまして、去年はマラソンの出走権のエントリーという出品をしました。22件の申込みを前回いただいたところですが、今回につきましては26件の申込み、4件の増加ということになりました。また、ふるさと納税に関しましては、出走権に加えて、今年については宿泊もセットにした商品というものも出品してみました。結構高額な商品になるんですけども、26件のうち2件の申込みをいただいたところです。いずれも前泊をされて、当日走って帰られるという方でした。

次に、地域別のエントリー状況です。ご覧のとおりになります。島根県からの県内の申込者が最も多くて893名、益田市の方には462名の参加となっております。また、県外の参加者は1,072名ですけども、記載はしておりませんが、内訳としては山口県から445名、広島から215名、東京から68名、福岡が39名ということで、近県からの参加者が大部分という傾向にあると思っています。また、東京を含みます関東圏域からの申込者数の記載をしております。129件の申込みをいただ

きました。前大会と比べまして14件ほど増加をしております。空港マラソンの一つの目的としては、やはり石見空港利用促進ということがございます。そうした意味では、関東圏からの利用者をもっと増やしていきたいということで、今年新たな取組もしたりしています。SNS広告ということで、首都圏在住者の方に限定してインスタグラムなどを活用して広告を発信したりですとか、あとは、先ほどもご紹介しましたが、RUNNETで広告を掲載するというのもやってきました。こうしたことの効果もあってか、14名の増加ということになっております。次回以降についても、この効果の検証というものをしっかりしながら、関東圏からの参加者を増やしていく取組を進めていきたいと思っております。

最後に、特別な配慮が必要な方のエントリー状況ということで、ご覧のとおりとなっております。車椅子の参加の方については、前回大会から引き続いて2回目の参加ということでございます。冒頭でも申しましたが、大会開催まで一ヶ月を切っております。万全の態勢で参加者に対しまして機運を高めて、リピート増につなげること、また空港の利用促進、利活用につながるよう努めていきたいと思っております。報告は以上となります。

領家教育長

はい、ありがとうございます。

ただいま説明した件につきましてご質問等あれば伺いますが、いかがでしょうか。

齋藤委員

参加者は、これから増える可能性はありますか。

中島補佐

もう締め切っております。

齋藤委員

分かりました。先ほどのフェスの話と同じですが、やはりどこかに日付を入れるべきだと思います。

それからもう一つ、県外の参加者の数字を説明してもらったので、大体様子は分かったのですが、せつかくなら口頭で説明された数字も入れておいたほうがいいのではないのでしょうか。

中島補佐

はい、ありがとうございます。

この資料につきましては、9月20日に開催しました第17回萩・石見空港マラソン全国大会実行委員会の第2回総会の資料から抜粋してつくったものであります。実行委員会の資料には、今おっしゃられたことがしっかり記載をしてあるのですが、抜粋をしたものについても、説明等を加えるのにあったほうが良い情報というふうに思いますので、加えるように努めたいと思います。

齋藤委員

教育委員会に正式な書類として出していることと、知らない人が見てもすぐに理解できるようにきちんと整理した方がよいです

ね。

中島補佐
領家教育長
教育委員

はい、ありがとうございます。
そのほかよろしいでしょうか。
＝全員了承＝

報第43号 益田市立雪舟の郷記念館改修整備事業について

領家教育長

では、続いて報第43号益田市立雪舟の郷記念館改修整備事業について、事務局より説明をお願いします。

田中課長

失礼いたします。

私のほうからは、益田市立雪舟の郷記念館改修整備事業についてご報告いたします。

事業につきましては、ここに書いてありますように、雪舟の記念館の改修整備事業ということであります。

契約の方法につきましては、公募型のプロポーザルにより随意契約を行うということにしております。選定方法と書いていますが、先般8月30日にこの選定委員会を開催いたしまして、益田市立雪舟の郷記念館の改修整備事業候補者の公募型のプロポーザル選定基準に基づきまして審査を行いまして、その候補者が決まったということであります。280点を満点といたしまして、委員の評価点の合計により評価いたします。評価点につきましては、50%以下は失格ということになっております。

選定委員については、5名で、うち外部有識者が1名で構成をされているということであります。

選定の結果のほうですが、事業の目的を理解した提案についての評価を経まして、契約の候補者を選定いたしております。

ここにありますように、評価項目につきましては、事業計画に関する評価、それから施設計画に関する評価、それからプレゼンテーションに関する評価、それから実績及び提案価格に関する評価という、大項目のところでは4つのところではありますが、4番目の部分につきましては、これは実績と提案金額、それとこれは機械的に判断する内容でして、提出されたデータに基づきまして一律に評価をしたというところでもあります。

配点につきましては、それぞれの項目につきましてそれぞれの配点がありまして、合計で280点となっております。配点の合計につきましては、5名の委員の総得点が1,400点ということになっております。次の欄のところには委員の評価の点を書いてあります。それぞれの委員の評価点、トータルで961点とい

うことになっております。その後が最高と最低点ということになっております。ということで、総点数1, 100点のうちの961点ということで、68.6%ということで50%以上ということで選定のほうを行っております。

契約の金額につきましては3億1,680万円ということになっております。

履行期間につきましては、契約締結の翌日から令和8年1月31日までということになっております。

契約の相手方につきましては、徳栄建設ヤマシタ設計特別共同企業体ということになっております。

以上です。

領家教育長

このことについてご質問等ありましたら伺いますが、いかがでしょうか。

齋藤委員

これも少し細かいところですが、7番の括弧に、提案書提出者1「者」と書いてありますが、会社の「社」だと思います。

田中課長

はい、分かりました。

領家教育長

ありがとうございます。そのほかよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

報第44号 第566回益田市議会定例会一般質問について

領家教育長

では続きまして、報第44号第566回益田市議会定例会一般質問について、事務局より説明をお願いします。

長嶺部長

はい、それではこの9月議会で質問をいただいた案件についてご説明します。この議会は市長が4期目をスタートして初めての議会ということで、市長が所信表明をしておりますので、その文章を事前にお送りしていると思います。まず、先にそれをご覧いただけたらと思います。

第566回益田市議会定例会市長所信表明についてという部分を述べております。この中の5ページが教育委員会に関連する部分になります。

益田市型中高一貫教育の仕組みづくりをしっかりと整えていきたいということです。算数・数学パワーアップ教室、それから東高校に委託している事業について、年々参加者が増えてきているということで、大学生、高校生との関わりを通じて学ぶことの楽しさを体感し、自ら学びに向かおうとする意識が芽生えているという状況で、これを学力育成に結びつけていきたいということです。中学校と高等学校の連携によって学びの連続性を確保

できる道筋を追求していきたいということでございます。ライフキャリア教育と益田市型中高一貫教育など、独自の教育施策を確立して、子育て世代に選ばれる町を目指していきたいというのが、この4期目の市長の教育に対する関わりとして述べているという状況です。この所信表明に対しまして、議会には各会派というものがあり、その会派の代表者の方がこの所信表明に対してご意見を言う、質問をするという形になっております。

まず1人目、佐々木恵二議員です。新政会という会派を組んでおられます。益田市では最大の会派になるというところです。ここで言うところの教育の部分でいくと、益田市型中高一貫教育でどのように子育て世代に選ばれる町を目指すのかというふうに問われております。その答弁として、全部は読みませんが、益田市型中高一貫教育に参加している児童・生徒は、大学生や高校生との関わりを通じて学ぶことの楽しさを体感している。特に算数・数学パワーアップ教室については、意識が芽生え始めて少しずつ個々の学力に結びついて、その結果、繰り返し参加するような姿が見受けられる。こうしたものを確かな学力に進めていくために、人づくりの要素も取り込みながら、小学校、中学校と高等学校の連携によって、本市の教育の充実に結びつけていきたいという内容で答弁をしているという状況です。

続いて、益田の未来をつくる会をつくっております河野議員さんも、所信表明についてのご質問でした。

まず、人づくりについてとありますが、所信表明の中で人づくりに一言も触れられていないけれども、これからも4年間変わりになく取り組んでいくのかということをお聞きしております。ここは当然変わりになく取り組んでいきますという答弁をしております。

それから、先ほど中島補佐から説明がありましたので割愛しますが、夏フェスをやった所管はどのように感じていますかというようなご質問がありました。アンケート結果などを示しながら先ほど中島補佐が言ったとおりの答弁をしております。

続いて、益田市においても、益田の県立高校がコンソーシアムというのを立ち上げました。最初に教育長がお話をさせていただいた部分ですが、このコンソーシアムの取組で、もう少し県立高校の取組を強化する必要があるかどうかという質問がありました。9月1日に、県立高校を核とした益田の未来をつくる会として設立されたこと、高校生の生き抜く力を涵養することが目的であるということをお説明し、市としては、この立ち上がった県立高

校を核とした益田の未来をつくる会と、従来から持っております益田市未来の担い手育成コンソーシアムとの連携が図られて、充実した取組が推進されるということに尽力していきたいと答弁しているところです。

それからしまね留学です。これも県立高校で行っております。他県から島根の高校に来てもらう取組です。津和野高校が有名かと思いますが、そういった取組をしてはどうかという質問がありました。基本的にこれは島根県の取組になりますが、現時点で市内の県立高校2校はこのしまね留学に取り組む意向はないというところです。ただ、こういった部分で取り組んでいきたいということであれば、今回立ち上がった県立高校を核とした未来をつくる会でいろんな検討をしていくという形になろうかというふうに思っております。

続いて今度は、会派ではなく個人質問になります。ここからは所信表明ではない個別な質問があるという状況です。

豊田浩議員さんは、萩・石見空港マラソンの関係です。

これも、先ほど中島補佐が言ったとおりですので、割愛をさせていただきます。羽田空港利用圏域の申込者が昨年よりは14名増えているという状況の紹介をしております。

それから、(7)番目、ユニバーサルスポーツを通じた健康づくりについてという部分です。この萩・石見空港マラソン大会をユニバーサルスポーツに力を注いでいるという旗印としてはいかがかというところです。障がいをお持ちの方がこういった形で参加されているということの紹介をしております。また、障がいを持っておられる方のボランティアという部分も、去年は15名、そのうち1名が川崎市から親子で参加されていると。今回は24名の方が運営ボランティアの申込みをいただいているということも紹介させていただきます。ユニバーサルスポーツとしての旗印ということですが、例えば申込方法として、募集記事の中の障がいをお持ちの方の参加に関する情報が少なかったというところから、次回以降分かりやすく改善していきたいということと、手話通訳士を配置しているということ、それから、より分かりやすい会場づくりを目指してサインの工夫やピクトグラムを活用するという取組も今回からしていますということを紹介しております。ただ、マラソンコースについては、アップダウンが多いので走りやすいとは言えないという状況だということを紹介しておりますが、伴走が必要な方は1名参加料が無料となっているということ、車椅子で参加される場合については、できるだけ参加し

やすいよう配慮していきたいということを述べております。去年は、ボランティアスタッフが自転車で伴走するという形を取っているということもあります。こうした取組をしているところではありますが、今後いろんな関係団体とも協議を重ねていろんな進化を図っていきたいというふうに答えております。

続きまして、8点目、これも夏フェスについてです。

教育長としてどのように捉えているかという部分です。

教育長も説明の場に立っていただいたというようなことも紹介しております。後段、教育委員会として、益田で学び育った子どもたちの成長を支えるための教育の充実に取り組んでいきたいと答えております。また、こうして人づくりを通した関係人口の拡大にもつなげていきたいというふうに答えている状況です。最後に、これからのライフキャリア教育の取組についてどのように考えているかという質問です。これも、今後も地域の皆さんと協働して、積み重ねてきたライフキャリア教育を一層推進するということを市長が述べているという状況です。

続いて、永戸明美議員さんです。

不登校についてというところですが、ふれあい学級、これは教育支援センターのことですが、それから心のかけ橋という事業、民間団体のフリースクール、それからそういった子どもたちの保護者の会の利用状況が今どうなっているのかという質問です。ふれあい学級については令和5年度の利用実績としては、小学生の実際の利用人数は9人。この9人で延べ423人、中学生は6人で271人利用しています。心のかけ橋は、これは元内田分校のほうでやっておりますが、令和5年度の利用実績は、小学生が実利用人数9人で、延べ25人、中学生が7人で、69人とが利用しています。それから、NPO法人志塾フリースクールは、令和5年度の利用実績が、小学生の実利用人数は5人で、延べ37人、中学生が6人で386人、若者という部分で延べ118人というふうになっているということを紹介しております。こうしたところの保護者の会ですが、ふれあい学級利用者の保護者の会では、年2回色々なイベントが開催されて、実際の利用人数は4人、延べ6人が利用されている状況です。そのほか、保護者が自主的にリンゴの木の家というものを開設していろんな取組を行っているということも紹介をさせていただきました。

それから、スクールソーシャルワーカーへつなげられた相談件数、相談内容はこういったものがありますかという質問です。令和5年度は、小学生が25人、延べ310件、中学生が27人、

366件、676件の相談があるということです。不登校に関するものが402件、発達障がいに関するものが58件、家庭環境に関するものが57件というような状況ということを紹介しております。次にスクールソーシャルワーカーを独自で増やすことも必要だがそれをどう考えるかという質問です。実は令和3年度までは2名の方に委嘱をしていましたが、内容が多岐にわたること、それから幅広い専門性が要ることから、4年度、5年度で1名を増やして3名、令和6年度はさらに1名増やして4名の方に委嘱をしているということを紹介しております。

また、永戸議員さんは、岡山県の総社市で色々な取組を勉強してこられたということで、益田市でもいろんな取組をしていく必要があるという質問がありました。それに対しましては、益田市にも色々な取組があることを紹介させていただきました。小学校では、市内の小学校2校に子どもと親の相談員という者を県の支援も受けながら配置をしている状況です。不登校児童や不登校傾向の児童、保護者の相談、家庭訪問、関係機関との連携ということも行っています。また、中学校では、学校には行けるが、自分のクラスには入れないとか、少し気持ちを落ち着かせたいような生徒に対しサポートを行うということで、不登校の未然防止に向けて取り組む学びいきいきサポート事業として、市内中学校4校に支援体制を整えているということを紹介しております。それから今年7月には、学校が苦手な児童・生徒の保護者の方へのリーフレットを配布しておりまして、市の公式ウェブサイトにも掲載しております。そういったところで、居場所の紹介や周知活動を行ってきたということを紹介しております。それから、子ども・若者支援センターというものを市の機関の中で持っているんですが、これも中学校卒業後からおおむね40歳未満、39歳以下の子どもそれから若者を対象として、生活支援や就労支援ということにも取り組んでいるということを紹介しております。それから、福祉部局では、さらにひきこもり支援の相談窓口なども設置しながら双方で連携を取ってやっておりますということも紹介をしたという状況です。

続いて、最後阿知波議員さんです。

山城サミットについてという状況です。何を目指しているのかというご質問があったところですが、日本遺産として登録されている中心的な存在になります七尾城跡が構成文化財の一つということで、日本遺産の魅力や中世の日本遺産を活用した取組を全国に発信していく機会と捉えているということを紹介しております。

七尾城跡や中世益田城下町の魅力、そういった価値を伝えるとともに、日本遺産の魅力を直接体感してもらおうということで認知度の向上を図っていきたいと答弁しております。市民の皆さんには、ふるさとの歴史文化への理解と関心を深める機会としていきたいということを申し上げております。

続いて、今現在どういう進捗状況ですかという質問です。

11月16日はグラントワ大ホールでシンポジウムを行うということで、テレビでおなじみの千田嘉博さんというお城の研究者、それからタレントの石原良純さん、さらには城郭ライターで萩原さちこさん、中世の食再現プロジェクトの代表などによってパネルディスカッションなども予定していることを紹介しております。17日は、れきしーなをメイン会場に、日本遺産構成文化財の各会場で周遊していただけるような企画を組んでいることを申し上げております。9月4日現在、1,000人の枠に対して616名、僅か10日でここまで応募があるという状況です。

実は、七尾城跡は木に覆われて様子が見えないということで、企業さんに飛行機を飛ばしていただきまして、木が全部なくなった場合こんなふうになっていますという赤色立体図、立体的に七尾城がどうなっているのかというものの制作に取り組んでいただいています。今度、7日にそういったものの寄贈式もある予定ですので、そういった取組もシンポジウム当日に紹介していきたいということを申し上げております。それから、来ていただいた方の見学案内に向けてボランティアガイドの養成なども行っています。それから、のぼり旗を立てたりということでもいろんな努力をしていますが、今後も引き続いて周知に努めていきたいということ、歴史愛好家の方が必ず読んでおられるという全国誌「歴史街道」という雑誌で、5ページにわたって特集が組まれているということ、東京の新聞、そういったところでも取り上げていただいているということを申し上げます。

また、この間横山城だったり高津城で健康ウォークを楽しむ山城ラリーというものをやってきたという紹介と、今後美都の丸茂城、美濃の美濃地城で予定していることも紹介しております。美濃地城においては、美濃地域の人からここをやってほしいという声があったというようなところで、広がりも見せておりますという状況です。

周辺的环境状況ということで、手すりの改修であったり、案内標識の更新などを適宜やってきていますというような状況を報告させていただきます。もう少し近づいてきましたら、改め

て見学路の点検や草刈り、落ち葉の掃除というのをやりたいという方がおられますので、そういった皆さん方と一緒に取り組んでいきたいと考えております。

その次です。開催後、どのような発展をしていきたいと考えているかという質問です。全国から初めて訪れる方もおられるということから、益田市のファンになっていただけるそういった機会にも捉えていきたい、今後の誘客にもつなげていきたいということを申しております。それから、先ほど言いましたように、山城ラリーなど、そういった部分の中で今後も各地域にある山城を改めて知っていただきたいということにしております。いろんな声をいただいておりますので、こういった取組を7年度以降も引き続いて、ふるさとへの愛着を一層深めていく取組として計画していきたいと、こう答えております。

続いて、教育行政についてということです。

道徳心や健やかな体を養うための教育の推進を問うというところでは、この道徳心や健やかな体を養う教育という部分ですが、その重要性を見て益田市の総合振興計画において具体施策として定めていることを紹介しています。人権感覚も含めて、行動ができる子どもたちを育成するとしております。また、益田市の教育ビジョンというものも紹介しながら、自らの振る舞いに気を配り、相手の立場を尊重することのできる子どもを育てていきたいというようなことも紹介しているという状況です。引き続いて、他人を思いやる心や善悪の判断など、自らの振る舞いを向上させるために、教育活動全体を通じて徳育を充実させることに取り組んでまいりたいと述べております。

続きまして、最後の質問です。

学校の働き方改革が進む中で、教職員の一層の負担軽減を図る方策ということでは、

昨年12月、県内の教育長共同メッセージということで、新聞の一面を使って働き方改革の理解とご協力を求めたということ、またそれを受けて、3月の益田市の広報で広く学校の現状というものをご紹介させていただきました。今現在も、各学校に留守番電話を設置して、運用を待つような段階になっているという状況になっております。引き続いて、教職員一人一人の健康保持と子どもたちに向き合う時間をしっかりと確保すること、効果的な教育活動が行えるように働き方改革に取り組んでいきたいということで、この質問に答えております。

以上、5人の方でした。

領家教育長

はい、ありがとうございました。

このことにつきましてご質問等ありましたら伺いますが、よろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

報第45号 令和6年度9月益田市一般会計補正予算について

領家教育長

それでは続きまして、報第45号令和6年度9月益田市一般会計補正予算について、事務局より報告を求めます。

齋藤課長

それでは、令和6年度9月議会におきまして、一般会計の補正予算要求しております。この概要に関しまして、資料に基づきご説明をさせていただきたいと思っております。

教育総務課では3つの事業に関しまして補正の要求を行っております。

表の一括の資料でご説明をさせていただきます。後段のほうには概要書等もございますので、ご覧いただければと思っております。

まず、72番、学校施設管理経費というところですが、内容につきましては、益田東中学校の技術家庭科室の地盤が隆起をしているというところが見受けられました。これまで調査等も行ってききましたが、正式に試料採取ということで地盤の状況を採取いたしまして調査を行うという経費の増額を行っております。補正額につきましては310万円というところですが、

続いて、76番、学校建設事業費です。これにつきましては、前回8月の定例会のほうでも説明させていただきました戸田小学校の移転改修に関わるものです。この工事に関わる改修経費等の実施設計業務、これを行うに当たっての経費、この増額ということでございます。補正額につきましては750万円を計上しております。

続いて90番、高津学校給食センター管理運営経費というところですが、こちらにつきましては、今年度に入りまして汚水処理浄化槽の関係の点検を行ったところ、ばっ気槽用のブロアーにつきまして少し故障等が見受けられるということで、この交換修繕に関わる経費、この増額を行っているところです。補正額につきましては181万1,000円というところで計上しているところです。教育総務課は以上になります。

田原課長

続いて学校教育課ですけれども、財源振替も含めて8つの事業について補正をしています。

67番、学校図書館支援事業費ですけれども、こちらについて

は、学校に配置しております学びのサポーターや図書館支援員に係る費用を捻出している事業です。県からの補助金の交付決定で減額になったので、財源の振替を行っています。

続いて、68番、教師用指導書等購入経費ということで、令和6年度から小学校におきましては新しい教科書で授業を始めております。今回の補正では、県の非常勤の講師や市が任用して下さる学級の支援員等が使用する教科書と、それから市内の吉田小学校については1学年が4クラス以上ある学年が3つありまして、その学年については指導書についても増やす必要があるということで増書してあります。その関係で補正をしております。

69番、情報教育特別対策費です。こちらは、小学校のタブレットの修繕に係る費用が当初予算より上回る状況が見込まれておりますので、増額しております。

70番、特別支援教育対策費です。こちらにつきましては、市内の小・中学校に通常学級の支援員や特別学級の支援員などなど、各種支援員を配置しておりますけれども、その配置について県からの補助金が一部充てられることになったので、財源の振替を行っています。

71番、地域スポーツ等活動体制整備事業費ですけれども、こちらにつきましては、部活動の地域移行の取組に対する事業ですけれども、県からの委託金が受けられるということで財源振替を行っています。

続いて、73番、学校図書館支援事業費です。これは中学校費のほうですけれども、さきほどの小学校費と同様に、中学校の学びのサポーターや図書館支援員の配置に係る県からの補助金が減額になったということで財源の振替を行っています。

74番、情報教育特別対策費です。これは中学校のタブレットの修繕に係る費用の増額でございます。

75番、特別支援教育対策費です。こちらでも中学校になりますけれども、中学校に配置しております各種の学級支援員に係る費用について、県からの補助金が充てられるということで財源振替を行ったものでございます。以上でございます。

中島補佐

それでは、協働のひとづくり推進課の財源振替を含めます9つの事業につきましてご説明いたします。

まず、77番、78番、それから87番、補正額の数字が入っていないものになりますけれども、これにつきましては、それぞれ国でありますとか県の補助金等の額が決定したことに伴います財源振替ということになっております。

87番のスポーツ施設整備事業費においては、スポーツ振興くじtotoの助成金を取りに行くということで申請をしておりますが、申請内容から8割の採択ということで決定を受けておりました、その減額を受けたものにつきまして地域振興基金に振り替えて事業を実施するものとなっております。

次に、80番、それから85番、88番については、これは速やかな修繕対応が必要な事態等が発生したことによります増額の要求ということになります。学習センターにつきましては、自動ドアのうち2枚、外側と内側にありますが、内側の自動ドアが今手動の状態になっておりました、その修繕費、それから、高津公民館につきましては、エレベーターの修繕業務です。

それから、88番、運動公園の管理運営経費につきましては、陸上競技場に写真判定塔という塔が立っているのですが、その老朽化が非常に進んできておりました、機器の修繕をするということで増額要求をしているところです。

それから、戻りまして、79番、社会教育施設等整備事業費ですけれども、記載の3点の合計で879万5,000円の要求をしております。豊川拠点整備事業につきましては、今年度、工事施工に向けて設計等業務を行ってきているところですが、小学校の浄化槽へのつなぎ込みの配管設計に係る調査及び図面作成業務ということですが、現在ある図面ですと配管の設計が難しいということで、調査、図面作成を新たに行うために要した設計変更ということになっております。また、勤労青少年ホームが2件ございます。1つが工損事後調査業務委託料の増額ということで、工事が終わった後に、その影響で周辺に問題がないかどうかということをチェックするという業務が必要なんですけれども、これの要求が漏れておりましたので増額要求をしております。次の設計変更の部分につきましては、地面を掘りましたら軟弱地盤であるということが分かりましたので、その対策に要する経費ということで補正要求してきているところです。

続いて、86番、図書館管理運営経費、図書館管理運営委託業務契約金額確定に伴う減額ということで、図書館管理運営につきましては、委託実施をしてきております。昨今の賃金上昇というところを鑑みまして、当初予算を編成するときに賃金上昇分ともう一つ、超過勤務も若干見られましたので、その増分というところを見込んでいたところですが、委託事業者のほうから、この超過勤務部分については一過性の部分があったので、見直しで整理をしますということの案が出されましたので、その分の額の

減に伴って減額をしているという補正内容になります。

最後に、８９番、ひだまりパーク管理運営経費についてですが、光熱水費等の上昇に伴う指定管理料の増額でございます。特に電気、それから芝生の管理をする原材料費、この部分につきまして非常に高騰してきているということで、指定管理者より協議書の提出がありました。この協議を受けまして、必要な措置を取るための予算につきまして増額の要求をさせていただいたものです。以上となります。

田中課長

はい、文化振興課のほうは、４つの補正となっております。

８１番の市内遺跡発掘調査事業費になります。埋蔵文化財包蔵地とありますけども、文化財が埋まっているということで、今回個人住宅の新築に伴いまして、そこの発掘調査ということで経費の増額を見ているところであります。

８２番、遺跡調査受託事業費、これはもう調査は済みましたが、都茂上２工区のほうの圃場整備事業に伴う発掘の実績になりまして、調整をしております。それから、先ほどの埋蔵文化包蔵地の、今度は宅地の造成に伴います発掘調査に関する経費の増額ということになっております。

それから、文化財事務費のほうは、現在共用車として現場に行く軽トラがありますけども、これが旧匹見町時代から使っておりまして、もう２４年ぐらいたっておりまして、なかなか運転するのが厳しくなっておりますので、今回リースによる切替えということになっております。

それから、雪舟の郷記念館整備事業費ということでもありますけども、国の補助金が対象になる部分がありましたので、その財源振替ということで今回補正をかけております。以上です。

領家教育長

はい、ありがとうございました。

ただいま説明した件につきましてご質問等ありましたら伺いますが、よろしいでしょうか。

教育委員

＝全員了承＝

＝終了時間 １６時５０分＝